

**岡田三郎助** 洋画家。黒田清輝の後継者として、官展系洋画家の中心的な存在となった。

おかださぶろうすけ

戊辰戦争終・1869 = 佐賀城下八幡小路で、旧藩士石尾孝基(後に検事)と多免の3女3男の末子に生まれる。幼名芳三郎。

廃藩置県・1871 = 2歳：父に伴われて、上京。

明治6年政変 1873 = 4歳：

初の民間工場1875 = 6歳：\_旧藩主鍋島直大の邸内に寄寓し、

西南戦争・1877 = 8歳：この頃から鍋島\_邸内にあった同郷の百武兼行の油絵を見て影響を受け、盛んに絵を描くようになる。  
大久保暗殺 1878 = 9歳：

明治14年政変1881 = 12歳：二松学舎に入学、

1884 = 15歳：東洋英和学院に移り、

"バラの学校"明治学院に学ぶうち、叔父中野健明が父を説得してくれ、\_洋画志望を認められ、

国民之友始・1887 = 18歳：岡田正蔵の養嗣子となるとともに、\_同郷の小代為重の紹介により、曾山幸彦に西洋画の指導を受ける。

帝国憲法発布1889 = 20歳：この年、日本画に押されて困難な状況を打開すべく、一大集団(明治美術会)が設立される。

足尾鉾毒始・1891 = 22歳：(明治美術会)会員となる。長崎県令の叔父中野健明を訪ね、  
大本教・1892 = 23歳：帰京の途次、佐賀の百武兼行の遺族を訪ねる。\_曾山が死去、後継する画塾(大幸館)で堀江正章に師事。

郡司千島探検1893 = 24歳：叔父中野健明の娘たちの大作肖像画。\_{大幸館}規定の科目を卒業。卒業制作は「矢調べ」。

日清戦争始・1894 = 25歳：「農家の娘」。\_同郷の久米桂一郎の紹介で、前年にフランスから帰国した黒田清輝を知り、

日清戦争終・1895 = 26歳：\_2人が創設した画塾(天真道場)に入る。黒田が出品した「朝妝」で裸体画騒動となった第4回内閣勸業博覧会に「初冬晩暉」を出品、妙技3等賞を受賞。

白馬会・1896 = 27歳：\*\_{白馬会}の創設に参加。東京美術学校に西洋画科が設けられると、藤島武二とともに助教となり、

八幡製鉄始・1897 = 28歳：腸チフスに罹るも回復。\_西洋画研究のための第1回文部省留学生としてフランス留学を命じられ、

パリの国産化・1900 = 31歳：パリ万博に黒田が来訪したのを機に、パリ在留日本人学生の親睦団体(パンテオン会)が結成され、会報第1号の口絵に「フォンテヌブロー近郊」を、2号の表紙絵に3人の裸婦を描いている。

教科書疑獄・1902 = 33歳：\_帰国、東京美術学校教授となるも、図案科所属、

日比谷公園・1903 = 34歳：\_第5回内閣勸業博覧会に「読書」を出品し、2等賞

日露戦争終・1905 = 36歳：

満鉄発足・1906 = 37歳：小山内薫の妹八千代と結婚。

韓国反日暴動1907 = 38歳：\*「東京勸業博覧会出品の(高橋義雄の妻描いた)「某夫人の肖像」が1等賞、三越のポスターとなり人気を博する。第1回文展審査委員に選ばれ、「高橋義雄氏肖像」ほかを出品。以後連年、審査委員をつとめる。

アヲ刊・1908 = 39歳：麻布区新堀町から渋谷の宇和島藩下屋敷跡地の新居に移る。「薊」「萩」。\_泉鏡花の「草迷宮」に口絵を描く。

伊藤博文暗殺1909 = 34歳：第3回文展に「大隈伯爵夫人肖像」。

韓国併合・1910 = 35歳：第4回文展に「くもり」「ひなた」。

明治天皇没・1912 = 43歳：本郷区春木町に\_{本郷洋画研究所}を設立、一時藤島武二とともに指導にあたる。

大正政変・1913 = 44歳：国民美術協会の創立に参加、評議員となる。農商務省第1回図案及応用作品展覧会審査委員。上野で、久米桂一郎ら同郷の画家らと佐賀美術協会の設立会合。「若き娘の顔」。

第一次大戦始1914 = 45歳：「海辺裸婦」。妻をモデルに「縫いとり」。

21ヶ条要求・1915 = 46歳：「黒き帯」。

民本主義・1916 = 47歳：女子美術学校でも西洋画を指導するなど、女性画家の育成にも尽力。\_代表作「水浴の前」。

本格政党内閣1918 = 49歳：\_西洋画科によくやく岡田教室がつくられ、

台湾総督府新庁舎ホール階段の壁画を制作。新設の\_帝国美術院会員となる。

大暴落・1920 = 51歳：妻をモデルに、大作「支那絹の前」を描くも、関係は悪化。

原敬首相暗殺1921 = 52歳：帝国美術院より大分県下石仏調査囑託、

水平社結成・1922 = 53歳：引続き、大分、佐賀の石仏調査を囑託される。第1回朝鮮美術審査委員会委員。

関東大震災・1923 = 54歳：この頃には、妻と別居。\_明治神宮聖徳記念絵画館(外苑)の壁画専門委員となり、

護憲三派圧勝1924 = 55歳：\*「黒田清輝が死去すると、後継者として、藤島武二とともに官展系洋画家の中心を担う。

治安維持法・1925 = 56歳：明治神宮聖徳記念絵画館壁画制作者の一人に決まる。\_「鏡花全集」の装幀も担当。

日本時代始・1926 = 57歳：竣工した\_岩絵具など準備を十分に、絵画館大作「大阪行幸諸藩軍艦御覽」の制作に取り組み、

金融恐慌・1927 = 58歳：(本郷絵画研究所)を改築し、あらたに開所。\_日本近代美人画を代表する「あやめの衣」。

共産党事件・1928 = 59歳：皇太后から天皇への祝品として、風景画制作を拝命。\_鍋木清方・久保田万太郎らとともに、泉鏡花を囲む会費制の{九九九会(会費が九九九銭)}が発足するとともに、和様への意識を高めて行く。

海軍軍縮条約1930 = 61歳：文部省より、工芸美術視察のために、欧州出張を命じられ、妻とともに渡欧、帰国。

満州事変・1931 = 62歳：{岡田三郎助氏蒐集美術工藝品展覧会}{岡田画伯外遊記念小品画展覧会}が開催される。

五一五事件・1932 = 63歳：

帝人疑獄事件1934 = 65歳：「少女(習作)」。\_帝室技芸員となり、

芥川直木賞始1935 = 66歳：「裸婦」。満洲国国務院正面玄関の壁画制作準備のため、和田三造とともに渡満。

二二六事件・1936 = 67歳：淀橋区西大久保の篠田病院に入院。\_「婦人半身像」。10年以上かけて完成した「大阪行幸諸藩軍艦御覽」を絵画館に奉納。満洲国国務院庁舎竣工に合わせて、正面玄関の「民族協和図」を描き、記念切手にもなった。

日中戦争始・1937 = 68歳：退院。帝国美術院が帝国芸術院となり引き続き会員。\_代表作「坐裸婦」。第1回文化勲章を受け、

健保+総動員 1938 = 69歳：皇太后の祝品として制作した「楊柳」が、藤島武二「旭日照六合」仕上がりとともに、奉納され御物となる。

第二次大戦始1939 = 70歳：\*\_{九九九会}の毎月の会合は鏡花が死去するまでかかさず続けられたが、風景画また岩絵具として到達点となる「河口湖鶴ノ島」描き、「編物」を最後に、東京帝国大学呉内科に入院し、退院後、自宅で没した。